

# 令和4年度 学力向上プラン

学校名 中央区立京橋築地小学校

## 学校の教育目標

・よく考える子      ・思いやりのある子      ・たくましい子
-------------------------------------

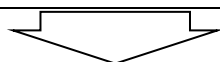
教育目標を達成するために学校として重点的に育成を目指す資質・能力（確かな学力向上にかかわる内容）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学ぶ楽しさが得られる授業づくりに取り組む。</li> <li>・授業内容の工夫のほか、朝学習、放課後補習などを活用し、基礎学力の確実な定着を図る。</li> <li>・校内研究と学力向上委員会を生かした授業改善、基礎学力定着への取り組みを行う。</li> </ul>
---

令和4年度「学習力サポートテスト」や令和3年度学力向上プランの検証結果、学校評価、児童の日頃の学習状況を踏まえ、10月までの授業改善の結果等によって明らかになった課題及び要因

	児童・生徒の学力の課題	主な要因
国語	「学習力サポートテスト」において、前年度よりポイントは上がっているが、5年生は読み取り、4年生は読み取りと漢字が区平均を下回っている。また、自分の考えを整理し、一定量の文章を書くことにも課題が見られる。	書く活動において、自分の考えを整理し、組み立てていく経験が不足していると考えられる。読み取る力にも課題があると考えられる。漢字については定着のための方法に課題があると思われる。
算数	「学習力サポートテスト」において、正答率は全国平均に対して全ての観点で上回っているが、5年生はすべての観点が区平均より下回っている。4年生と6年生は「思考・判断・表現」が区平均を下回っている。基礎となる技能に加えて、筋道立てて考える力に課題があると考えられる。	筋道立てて考える力、自分の考えを表現する力ともに個人差が大きい。問題を解くことや説明することへの見通しに自信がもてていないことが要因の一つとして考えられる。
社会	「学習力サポートテスト」において、区平均と比較すると、5学年が「知識・技能」と「主体的に学習に取り組む」が下回っている。全学年で資料の読み取りやそれをもとに考えたり、活用して表現したりする力に課題が見られる。	児童自らが学習のめあてを明確に捉え、目的意識をもてていないことが考えられる。見通しをもって問題解決に取り組むための手立ての工夫が必要である。
理科	「学習力サポートテスト」において、全体的に昨年度よりよい結果となったが、区平均では6年生と5年生が「知識・技能」で下回っている。「主体的に取り組む姿勢」については5年生が下回っている。「自然事象への関心・意欲・態度」の低さが全体の課題につながっていると考えられる。	学習問題に対し、何を明らかにするのかを明確に捉えていないことが考えられる。また、学んだことを日常生活に当てはめ、活用する活動の不足が考えられる。
英語	高学年では、自分の気持ちや考えを伝え合う場面において英語を話すことへの不安感から自信をもって発表ができない児童が多く見られる。また、アルファベットの小文字を正しく書くことや英作文に課題が見られ	自信をもって活動に取り組む基本となる既習表現や新出単語を定着するための練習が不十分であると考えられる。

	る。	
体 育	令和4年度のスポーツテストの結果では、「反復横とび」において数値が高い学年が多いが、「ソフトボール投げ」が男女ともに全国平均を下回っている学年が多い。高学年では、握力・上体起こしが低くなっている。	感染症予防のためにボールを投げる活動に制約があったことが、投力の低下につながったことが考えられる。また、外遊びの減少や座ったままの状態が長く続いていることも考えられる。
学力向上に向けた視点		年度末までの目標及び指標
① 各教科	国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>筋道を立てて考える力や感じたこと、想像したことを伝える力を育成する。漢字の書き取りを定着させる。</li> <li>「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「書くこと」「読むこと」項目で区の平均点を上回るようにする。</li> </ul>
	算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題に対して筋道を立てて考える力や自分の考えを表現する力を育成する。</li> <li>「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」項目で区の平均点を上回るようにする。</li> </ul>
	社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的事象において主体的に課題を追究する力を育成する。</li> <li>「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」項目で区の平均点を上回るようにする。</li> </ul>
	理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的な問題解決の活動を通して、自然の事象を自分の生活と関連付けて考える力を育成する。</li> <li>「令和5年度学習力サポートテスト」において、実施学年で「知識・技能」項目で区の平均点を上回るようにする。</li> </ul>
	英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習したことを生かして、主体的に表現することに慣れる。</li> <li>「令和5年度学習力サポートテスト」において、区の平均点を上回るようにする。</li> </ul>
	体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>特色である縄跳びや持久走を通して、体力の向上を図る。</li> <li>「令和5年度のスポーツテスト」において、実施学年で「ソフトボール投げ」「シャトルラン」の項目で区の平均点を上回るようにする。</li> </ul>
②授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>分かりやすく、確実に学力を定着させる授業をめざし、学校評価の児童・保護者アンケートの授業に関する項目で、肯定的評価を90%以上にする。</li> </ul>	
③家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭との連携のもと、学年×10分の家庭学習の習慣を身に付けさせる。</li> </ul>	
④体力向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>スポーツテストの各項目と水泳、持久走、および縄跳びにおいて、学年に応じて設定する数値目標の達成率を80%以上にする。</li> </ul>	



## 【目標達成のための具体的な取組内容】

①各教科	
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習のねらいや発達段階に応じて、話の内容や文全体の構成を考えながら目的や意図を理解するなどの指導を積み重ねる。</li> <li>・年に4回、季節の詩を作成し、語彙力や文法力、文章力を高める。</li> <li>・読書の推進を行う。</li> </ul>
算数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上で習熟度別少人数指導を導入し、個に応じた指導を継続的に行う。</li> <li>・低学年から図と式、言葉で自分の考えを説明する数学的思考力や相手に伝え合い学び合う学習を積み上げる。</li> </ul>
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の学習過程に沿った授業の展開を工夫し、社会的な見方や考え方を指導する。</li> </ul>
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習内容と実生活との関連を図りながら、問題解決を通して実感を伴った学習内容の理解ができるようにする。</li> </ul>
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担任とALTが連携し、興味・関心をもって取り組む学習活動の工夫をする。</li> </ul>
体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東京都の体力調査の結果を踏まえ、強化すべき体力を焦点化して、体力向上のための環境を整える。</li> </ul>
②授業改善	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読書活動、文章を読み取る学習活動のほか、考えたことを文章にまとめる活動の充実を図り、読む力と書く力を育成する。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットPC等ICT機器を活用し、数学的活動や、自分の考えを言葉や図、式で表現する活動を工夫し、数学的な思考力を育てる。</li> </ul>
③家庭との連携	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年×10分間の家庭学習が習慣として身に付くように、保護者会や個人面談などを通して保護者との共通理解を図るとともに、家庭学習を日常的、計画的に取り組めるようにする。</li> </ul>
取組Ⅱ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人面談や通知表などを通して、学力調査の結果や日常の学習活動への取組などについて、児童の個々の状況を適切に保護者へ伝えるとともに、よりよい成長のための手だてについて共通理解を図る。</li> </ul>
④体力向上	
取組Ⅰ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・縄跳びカードを活用し、学年ごとの達成目標を設定して個々の技能に応じた指導の充実を図る。</li> </ul>

取組Ⅱ

- ・持久走カードの活用や、持久走重点週間の設定、体育の授業に継続的に持久力を高める運動を取り入れることで、児童の意欲と体力の向上を図る。